

授業科目名	人体構造学I (Structure of human body Part I)		
対象学年	医学科 1 年生	単位	6単位
科目責任者	あおやま ひろひこ 青山 裕彦	所属	解剖学および発生生物学 (内線 5110)
		メール	aoyamah@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義および実習中心, 印刷物配布, スライド投影, 光学顕微鏡観察, 人体解剖学実習, 学生による発表		
概要	<p>「医学一般」のうち, 「個体の構成と機能」 「人体各器官の正常構造と機能, 病態, 診断, 治療」のうち, 「人体各器官の正常構造と機能」 「全身に及ぶ生理的変化, 病態, 診断, 治療」のうち, 「成長と発達」「加齢と老化」に関連する項目を扱う。</p> <p>人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで関連づけて把握する。 人体の構造によりになわれている機能を理解する。 人体の構造が形成される個体発生の過程を知り, その機構について考察する。 人体の構造が形成されてきた歴史 (= 系統発生) を探る。 人体の構造について臨床医学の面からも捉える 以上のことを通じ, 人間の尊厳と生命への畏敬の念を養う</p>		
到達目標	<p>「人体構造学I」は, 次のユニットからなる。 それぞれの目標・内容については, 別に掲載する各ユニットの項を参照。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統解剖学 I 2. 組織学総論 		
講義日程	<p>別に掲載する各ユニットの項を参照。</p> <p>なお, 2年次には, 2017年6月4日(日)に行われる献体者慰霊祭に全員出席するので予め空けておくようにする。また, 葬儀と同様の服装で参列するので, それまでに相応しいものを整えておくようにすること。</p>		
評価項目	試験の成績, 及び, 実習への取り組み方などを総合的に評価する。 詳細は, 別に掲載する各ユニットの項を参照。		
評価法	別に掲載する各ユニットの成績を総合して評価する。		
履修上の注意 アドバイス	<p>解剖学は, そこにならがあるかを見る(目だけで「見る」のではない), ほかのものと見分ける, あるのかないのか見定める, 学問である。けっして, 書物に記載されているものをそのまま「覚える」ものではない。おのおのが, 自分自身の五感を使って「発見」するものである。なにを発見するのか? それはあなた自身の問題意識にかかっている。</p> <p>多くの学生にとって, 解剖学は人生の最初に出会う壁となろう。膨大な語彙と立体構造, 時間軸(発生)の組み合わせに圧倒されないように。</p> <p>枝葉にとらわれずに, まずは幹を見定めよう。講義や実習で色々と細かなことを取り上げるかもしれないが, それは幹が幻でないことを証明しようとする努力である。もし幹が見えにくいと感じたら, できるだけ簡単な解剖学の書物を通読してみよう。例えば, 入門人体解剖学(第5版), 藤田 恒夫, 南江堂(2012) ¥ 5,400, や入門組織学, 牛木辰男, 南江堂(2013) ¥5,400のようなもの。カラー人体解剖学—構造と機能: ミクロからマクロまで, Frederic H. Martini, Michael P. McKinley, Michael J. Timmons (原著), 井上 貴央(監訳), 西村書店(2003) ¥8,424</p>		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと		